



としよかんぽう

43



図書館長就任のご挨拶

なまため のりふみ
生田目 学文

このたび、2025(令和7)年4月1日付で図書館長を拝命いたしました、生田目です。責任の重さとともに、これまで本学と深く関わってきた私にとって、このような大役をお引き受けすることになったことに、身の引き締まる思いを感じています。

私が新任の講師として本学へ着任したのは、2002年4月のことでした。当時、与えられた研究室の場所は図書館2階の一角でした。日々をこの図書館で過ごしていた記憶が今も鮮明に残っています。平日は講義やゼミ、その準備に追われ、週末には博士論文の執筆に必死の毎日で、図書館は私にとって「学びの拠点」であり、「知の源泉」であり、そして時には「第二の自宅」ともいえる存在でした。疲れたときには気分転換に館内を歩き回り、書棚に並ぶ書物の背文字を眺めては、自分の研究テーマとは異なる分野の知に触れ、思わぬ発見を得ることがあり、楽しみでもありました。その後、図書館からH-ONE館、さらに5年前には2001館へと研究室を移しましたが、図書館との距離は変わることなく、常に私の研究・教育活動を支えてくれる存在であり続けました。今年度から、今度は運営の一端を担う立場としてここで働くことになったことに、感無量の思いです。

私にとっての図書館との関わりは、本学だけにとどまりません。米国の大学院に留学していた際にも図書館での勤務経験があります。「レイト・ナイト・ガード」(Late Night Guard)と呼ばれる、閉館後の自習室の管理業務でした。この経験については、2017年に『としょかんぼう』へ寄稿した文章に詳しく記していますので、ご関心のある方はご一読いただければ幸いです¹。

研究者としての私の専門は国際政治学、とくに安全保障学です。博士論文では「日本のミサイル防衛」と題し、核兵器の軍縮・軍備管理の視点から、国際的な安全保障問題について理論的に考察しました。学位取得後も、現代の複雑化する国際情勢に対応すべく、常に問題意識を持ち、研究者としての学問的研鑽を続けています。本学に着任してからは「国際福祉」分野にも視野が広がり、「人間の安全保障」との興味深い重なりを見出すことができました²。学際的な領域に視野を広げてきた結果、福祉と安全保障という、一見異なる分野の交差点において、人間の尊厳を守るという共通の価値を見出すことができたのは、本学における学際的な教育・研究環境のおかげです。研究を進める上で大切な資料と

して、イギリスの国際戦略研究所が発行する『The Military Balance』『Strategic Survey』、スウェーデンのストックホルム国際平和研究所が刊行する『SIPRI Year Book』といった高額な洋書資料が、重要な情報源となってきました。これらの文献は「図書費」によって入手することができました。本来「図書費」は学生用の図書館資料購入費から捻出されていたものでしたが、昨今の予算削減の影響を受け、2023年度から学生用資料の充実を優先する方針となり、専門的な研究用図書の購入は難しくなっています。研究者にとって貴重な資源であったこの制度が失われたことは残念ではありますが、これまで多大な支援をいただいたことには、あらためて深く感謝申し上げます。

教学面においても、図書館との協働は欠かせません。とりわけ「論文検索ガイダンス」は、学生たちの学びを支援する極めて有意義な機会となっています。生田目ゼミでは、2年次の前期に文献検索の基本的な知識と操作方法を教えていただき、3年次の後期において卒業論文に向けて、より専門的な知識と検索の実践を指導していただいています。図書館における情報技術の進展はめざましく、電子資料の整備やデータベースの活用など、学びの場は日々進化しています。こうした環境に身を置くことで、学生たちは自ら問いを立て、必要な情報を収集・活用する能力を育て、私自身も毎回のガイダンスから多くの学びを得ています。

2025年は本学にとって開学150周年という、大きな節目の年となります。これを契機に学部・学科の再編が行われ、総合マネジメント学部は共生まちづくり学部へと生まれ変わり、私の所属も総合福祉学部福祉行政学科となりました（2年生以上については従来通り情報福祉マネジメント学科です）。本学図書館も閲覧業務の外部委託が開始され、図書館棟の新築に向けた計画も具体的に動き出しています。こうした大学全体の大きな変革の中で、図書館が果たすべき役割もまた、より重要かつ多様なものへと広がっていくことでしょう。このような新たな時代の幕開けに、図書館長という責務を担うことになり、気持ちを新たにしています。図書館は、学びの起点であり、知的探求の場であり、多様な人々が集い、交わる場所です。その理念と機能を未来へとつなげていくために、図書館員のみならず力を合わせ、誠心誠意取り組んでまいります。

今後とも、ご支援とご協力のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

¹ 生田目学文「図書館エトセトラ – 海外編 – レイト・ナイト・ガード」東北福祉大学図書館「としょかんぽう」No. 26, 2017年12月, p. 6. URL: <https://www.tf.u.ac.jp/libr/s9n3gg000001gvrq-att/kanpou26.pdf>

² 生田目学文「人間福祉と人間の安全保障: 接近する軍事と福祉の概念と実践」東北福祉大学編『東北福祉大学研究紀要』第34巻, 2010年3月, pp. 45-59.

「夢中の持つ力」

今取り組んでいる研究ってどんなものですかと聞かれたら「障がいのある方や支援者の困っていることを解消し、相手が笑顔になったり、ありがとうと言ってもらえたりすることがあるので、とてもやりがいがあることです。」と答えます。でも、この回答ではどんな研究なのかが全く分からないですね。そこで、少し説明を加えて「コンピュータを活用して、障がいのある方の『できない』を、『できる』に変える支援に関する研究です。」と伝えると、何となくわかったような、わからないような気持ちになります。

さらに具体例を加えて「あなたの持っているスマートフォンを全く目が見えない全盲の方が使うことを考えます。スマートフォンの操作は画面を見ながら操作しますが、全盲の場合、画面を見て情報を把握することができません。そのため、どこを触ったら良いかわからず、使うことが難しくなります。そこで、スマートフォンに標準搭載されているアクセシビリティ機能を使って、画面の触った場所の情報を読み上げてくれる機能を ON にします。そうすることで、音声情報を基にスマートフォンを使えるようになります。こういったアクセシビリティ機能や身体がほんのわずかし動かかない方がパソコンを使えるようになる支援技術をより多くの人に知ってもらうための支援に関する研究を行っています。」といった説明をします。この説明を聞いて、なるほどと思っていたら、なんとなくとても難しいことに思えるという方がいると思います。ここで大切なことは、難しいことに思える方を受容すること、そして、支援技術の可能性について知ってもらうためのアプローチを考えることになります。

コンピュータを活用した支援技術（アシスティブテクノロジー）の研究領域は、ALS（筋萎縮性側索硬化症）という身体が動かなくなっていく難病患者が使用する重度障害者用意思伝達装置や環境制御装置が代表的な支援技術になります。また、近年では、視線入力装置を用いて

意思伝達や絵を描く、eスポーツといった活動が行われるだけでなく、動画共有サービスをとおして様々な事例として発信されています。そのおかげで、支援技術についての情報がより多くの当事者や支援者の目に届き、自分たちにもできるのではという希望につながっています。

しかし、動画などを見て、実際にはじめようとしてもどこから手を付けたら良いかわからない。不安だから詳しい人に相談したいけれど相談窓口がわからない。そして、実際に機器を揃えてみたけれどどう使ったらよいかわからなくなり、そのまままってしまうことがあります。こういった状況を解消するために、当事者や家族の方からの相談に対応したり、施設等の作業療法士の方々と一緒に活動を試みたり、多くの方に理解してもらうための教授法について検討したりといった研究を行っています。

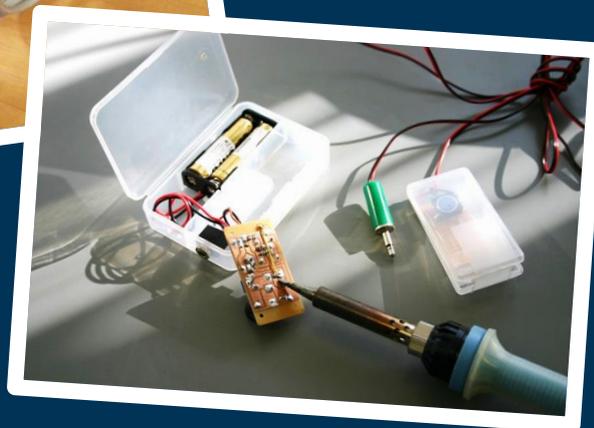
支援技術の領域は、近年の生成 AI やeスポーツのように新しい技術や文化が日進月歩のスピードで登場し、変化していくようなスピード感ではありませんが、少しずつ変化しています。私が見てきた中では、意思伝達装置を使わなくても、タブレットを活用してこんなことができるようになった！脳波を検出して意思伝達ができる！視線入力装置という新しい技術が出てきた！といった可能性が広がる変化だけでなく、各種都合により〇〇という機器の販売を終了しますといった残念と思える変化もあります。そういった中で、支援技術に対して新しい技術を積極的に学ぶことが良いことなのか？古い技術はどうすればよいのか？と悩むことがあります。その答えを考えるときに支えとしている本があります。

私の支えとしている本は、いしいしんじ著『トリツカレ男』（新潮社）になります。本の紹介文の最後には「まぶしくピュアなラブストーリー」と書かれていますが、私の支えとなっているのはラブストーリーの結末ではなく、主人公のジュゼッペの姿です。ジュゼッペは、一つのことに夢中になるとそのことについて極めるのですが、周りの期待とは裏腹にふとしたときに夢中になる対象が変わってしまうという人物です。はたから見たら熱しやすく冷めやすい人といえるかもしれませんが。そんなジュゼッペがもてる技のすべてを使ってヒロイン、ペチカの心をあたためようとします。このジュゼッペの姿は、興味本位から行ってきたことも自分の叶えたいことを

実現するための力になるかもしれないという私の原動力につながっています。

重度障害者用意思伝達装置における重要な作業として、一人一人に合わせたセッティングがあります。ALSに限らず支援技術を必要とする当事者が機器を操作できる身体の箇所は、指先から腕全体、顔の筋肉やまばたきなど様々であり、その力加減も異なります。また、各々が支援技術を用いて実現したいニーズ(要望)も異なるため、個別性の高い支援が求められます。つまり、支援者にとっては、共通する一つの解決方法を学ばよいいということではなく、様々な支援に関する技術の引き出しを持っておくことが重要になります。そのためには、過去の成功事例に限らず、この技術が役立つだろうと思ったら、その技術の良し悪しや活用方法などを学んでみる必要不可欠となります。

トリツカレ男であるジュゼッペを思い浮かべると、ペチカを助けるために様々なことに夢中になっていたのではなく、夢中になったことがペチカを助けるために活用できたといえます。そのため、今の私は支援技術にトリツカレた男であり、本当に役立つ学びをしているのかという保証はどこにもないですが、支援に役立つのではと気になったことを学んだり、研究したりしている状況です。ということで、みなさんもまずは気になったことにぜひチャレンジしてみてください。



統計の中の人

「ねえ、多読って国外だけ？」向いに座る雑誌担当者より声かけられました。

「……いや、MeLなので国内だった？ような？」私は答えました。

図書館にとって年度初めは統計の季節。全国の公共図書館、大学・短大・高専図書館に日本図書館協会から『日本の図書館』調査依頼が届きます。調査依頼が届いたら館内の各担当に回答項目が割り振られます。私は図書係なので図書に関する項目の回答が課せられます。まずは記入要領を熟読します。統計によって項目の定義が異なるからです。『日本の図書館』では蔵書冊数は【製本雑誌を含む。視聴覚資料、電子図書などの電子的資料は含まない】とされています。電子情報資源のところも見てみましょう。【オンライン上で全文を読むことができるものをいう（購読料や契約料が発生しないものは含まない。）国外の出版社、アグリゲータから購入したタイトルは「②うち国外」に含む。】冒頭の質問はこれに関してですかね。定義を確認したら次は指定日を確認します。年間受入図書冊数は【2024年度中に受け入れた図書総冊数。】となっています。つまり2024/4/1～2025/3/31ですね。ちなみに電子ブック点数は【2025年3月31日現在に購読可能だった点数】で、職員数は【2025年5月1日現在の数】を記入すること。

定義・指定日を確認したらあとはシステムでデータ種別や受入日などで条件付けして抽出します。イレギュラーなデータがあれば手作業で修正します。本館と分室の数字をそれぞれ出したら、はいオッケー。こうして提出した回答は翌年3月に『日本の図書館』として出版されます。そして雑誌担当者はこの時期このほかにJUSTICE(大学図書館コンソーシアム連合)からの統計が、図書系には大学紹介系の雑誌へ掲載する蔵書数などの依頼がきます。ほかにも大学で取得できる資格関連の調査や通信教育の実態調査、共生まちづくり学部の設置計画で記載する数字などなど……

そして秋、文科省から「学術情報基盤実態調査」の依頼がきます。こちらでは図書に該当する部分は【印刷物の蔵書数】の内の図書となっています。図書の蔵書数や受入数のほかに【視聴覚資料の所蔵数】や【図書館資料費の内訳】、【視覚障害者等が利用しやすい書籍等の所蔵数】、なども回答しなくてはなりません。こちらも記入説明書をよく読み……∞



読書の記録(図書館 堀慧子)

『変な家』(文庫版)

雨穴・著 2024年 飛鳥新社

電子版を購入
256ページ

図書館員
の
読書①

※2021年刊の文庫化
文庫版あとがきあり

日	月	火	水	木	金	土
7/6	7/7	7/8	7/9 電子版 購入!	7/10 読まず! 3 日前に買った別の本が 読みたい。	7/11 どっちの本 を読むかで 迷う。	7/12 いっその他の 本も購入し てみる。
7/13 読む! 約1時間で 読了	7/14 映画の方も 観る	7/15 単行本をチ ラ見 小分けに映 画観ている	7/16 まだ映画観 ている	7/17 元の動画も 見る。 インタビュー 記事を探 す。	7/18 特集されて いる雑誌を チェック... 感想文を書 く!	7/19

いろいろあって『変な家』を読むことになった。この本のことはもちろん知っていた。著者の雨穴氏の他の Web 記事を拝読したこともあったし、映画化されたのも知っていた。しかし、私は“小説”を読まないのだ。困った。とりあえず、帰宅後即電子版を購入&ダウンロードした。Wi-Fi がなくて気軽に買えないのが電子書籍の弱点だな。

読んでまず思ったのは、小説に対して苦手と感じていた、心の揺れを感じなかったということだ。状況説明と会話文で成り立っており、感情を煽る表現や情景に関する描写が見られない。間取り図をスタートとし、推理→判明した事実→推理→判明した事実と進む。著者本人の視点で淡々と書かれた、いわゆるモキュメンタリーであり、著者の風貌を知っていることも作用し感情移入もせず疲れない。とてもいい。また、読解に必要なタイミングで図が都度挿入されている。通常、図は一度しか掲載されず参照する時は掲載項に戻らなくてはならない。特定の項に戻るというのは電子書籍では面倒なのでとても助かる。とにかく楽に読み進められるので、途中で挫折した人は少なかつただろう。読書に不慣れだが何か読んでみたいという人によく合う。が、この本が読みやすい分、次に何を読むかは難しい。あ、内容はホラーというより不気味ミステリーという感じで、怖いのが得意じゃない人にちょうどいい感じでした。



読書の記録(図書館 八巻千穂)

『変な絵』(文庫版)

雨穴・著 2025年 双葉社

冊子を購入
371ページ

図書館員
の
読書②

※2022年刊の文庫化
文庫版加筆あり

日	月	火	水	木	金	土
7/6	7/7	7/8	7/9 国見堂で 購入！ 帰宅時、電 車で20分 ほど読む。	7/10 混雑する電 車で無理や り読む。た ぶん30分 くらい。	7/11 朝の電車で 20分ほど 読む。帰 りは疲れた ので断念	7/12 友人とお出 かけ。 だから今日 は読まない って決めた
7/13 眠いけど、 1時間くら い読む。 やっぱり眠 い…	7/14 朝の電車で 読破！ 10分ほど。 感想文を書 く！	7/15 感想文を書 く！	7/16	7/17	7/18	7/19

トータル2時間ちょっとで読了。こういう小説は電車でも読みやすい。隙間時間にストレスなく、サクサク読むことができる。ストーリー自体もシンプルで読みやすいのいいところ。ちょっと流し読みしても内容がちゃんと追えるから安心、安心。でもね、あまりにストレスなく読み終わると、読んだことさえ忘れてしまいそう。電子向きの小説かなと思うけど、本という形がないと「アレ？本当に読んだっけ？」ってなりそうな予感。だから本というモノがあるから、読んだぞ！という証拠になるのだよ。ハハハっ！どうだ、これが紙のいいところ！

9枚の‘変な絵’が織りなす謎解きホラー。‘残されたもの’って、やたらと推理したくなるのよね。そこには知りたい！という欲求を刺激するナニかがある。

『変な絵』は、『変な家』同様コミック版もあって、コミック版のほうが、コマ割や構図の工夫なんかもあってよりスリル感を味わえるかも。スリルを味わいたい人はコミック版も試してみてくださいね。

ホラーは夏の風物詩、観るのもいいけど読むスリルもいいものですよ 🍷

私は読書好きであった。過去形なのは、忙しさから読書からは遠ざかりつつあるからだ。本屋で好きな作家の新刊を横目に、読む時間がないか…と諦めてしまう日々。そんな時に、としゃかんぼうの依頼を受け、今まで読んだ本を思い出してみた。私が読書好きになったきっかけは、小学生の頃に読んだ、こまつたさんシリーズだった。(わかつたさん派とこまつたさん派に分かれるが私はこまつたさん派!)友人と争奪戦で図書室から借りたことは今でも忘れない。中学生の時には国語の先生がおすすめの本をたくさん貸してくれ、その中でもヨースタイン・ゴルデルの『カードミステリー…失われた魔法の島』が思い出深い一冊。『ソフィーの世界』で有名な著者だが、子供向けに書かれた本書は哲学要素が軽めで非常に読みやすく、現実と本の世界がリンクしながら物語が進み、読む手を止められなくなるほど没入感を味わえる一冊!何かにはまりたい人におすすめ。

誰かわたしに時間を ください!!

~愛すべき読書ライフのために~

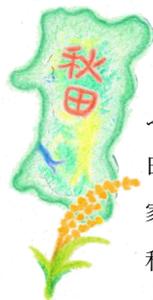
最近少し時間を作ることができ、久しぶりに一冊の本を読んだ。小川系の『ライオンのおやつ』。一人の女性が治らぬ病を抱え、仕事や家族全てと離れ自然に囲まれたホスピス「ライオンの家」で最後の時を迎えるまでが書かれている。ホスピスで出会う個性豊かな人々、そして死を迎える彼らの傍に温かく穏やかな食事が寄り添う。四季折々の食事、思い出のおやつ、読むだけでも温かさを、香りを、色鮮やかさを感じる料理が一人の女性を、そして周囲の人々を癒して行く。「生きるとは。死とは。」について、穏やかに考えさせられる不思議な感覚を味わえた一冊である。ぜひ日頃の疲れをこの一冊で癒し、明日からも頑張ろうと少し背中を押してもらおう。

思い返してみるだけでも、やっぱり読書って良いものだなと実感。ああ、愛すべき読書ライフを送りたい!! (誰か私に時間をください!)

吉田 和美 (教職課程支援室)

(通称 ハッチー)
**八幡将軍
の
ほろよい
地図帳**

「地図」×「日本酒」の大人の時間



「雪の茅舎」の茅舎とは、「かやぶきの家。そまつな家」のこと。白い雪のなかに佇むかやぶきの家、雰囲気あるよねー。秋田県由利本荘市にある齋彌酒造は、河口に近いところに位置していて、山からずーっと降りてきた水は、色々な栄養が蓄えられてまるい水なのかもしれない。呑んだときにすーっと入ってくるまろやかさは、日本酒感が強くて実にさわやか。空気もきれいなところだから、素直な味になるのかも。

日本酒を呑みながら地図帳をひろげて、
その地を旅するように、日本酒を味わう。

こんなコンセプトで不定期連載コラムを始めます。日本酒と共にほろよい気分で地図帳を開きながら語りはハッチー、聞き手はコキンジでお届けします。呑めないみなさんは、想像してお楽しみください。さて、今回話題にする日本酒は「雪の茅舎(ぼうしゃ)」「美丈夫(びじょうぶ)」「国権(こっけん)」。



「国権」は福島県南会津の国権酒造のもの。ここは豪雪地帯で、ぶなの原生林が残っているような山深い地域。自社の井戸からくみ上げた柔らかみのある水を使っているとのこと。雪解け水を山からダイレクトにいただく感じは野生的でしょ？だから!?味も力強い。日本酒と聞いたら想像する味って言うのかな、豪雪地帯の冬を凌ぐには、これぐらい力強くないと！と思わせる。



「美丈夫」は高知県安芸郡、田野町にある濱川商店のもの。「美丈夫」を辞書で調べると、容姿が美しく、体格の立派な男性のことを指すらしくて、高知県だしついついガテン系を思い浮かべちゃうけど、飲み口はさいごまでさわやか、辛口だけどもっともまろやか。男前というよりも、さわやか青年って感じ。田野町は四国で一番小さな町だから、目を凝らして地図をみないと見落としちゃうけど、奈半利(はなり)川の西側に位置していて、土佐湾に面しているとても自然が豊かな場所。水が超軟水らしいからやさしい味になるのかな。

(語り・画：ハッチー)

EDS



間違い探し!



さあ、とんでもなく似ている二つですが(EとBも似ているし!)、全くの別モノです。でもどちらも図書館には深〜い関わりがありますし、どちらも最近新しく導入されました。

まず EDS とは、**EBSCO Discovery Service** の略。これはあらゆる学術情報をまとめて検索できるとても便利な検索ツールです。EBSCO はサービスを提供している業者名で、一般的に色々な情報を発見できるという意味でこういったサービスのことを **Discovery** と言います。図書館に所蔵している本も、そうではない本も、雑誌の記事でも、時には新聞記事もこの EDS の検索マドにキーワードを入れると即座に発見し、お知らせしてくれます。またシソーラス機能もあるので、入力したワードに関連する事柄も同時に引っ張ってきます。さらに、EDS の機能は進化しており、近日 AI 機能も搭載、しかも EBSCO が収集したあらゆる学術情報から引き出されてくる AI データなので、Google で AI 検索したときのような雑多の情報は含まれていません。凄いでしょ!? それから、英語の論文を日本語に翻訳する機能や、研究者の方にはおすすめ、研究分野の近接領域の研究データもお知らせしてくれる機能が搭載されるので、是非、いや絶対使って損はなし! 学生のみなさんも、どんどん使って学習に役立ててください。

次に BDS について。こちらは **Book Detection System** の略で、主に図書館で取り入れられているセキュリティシステムのこと。4月からこのシステムを含む、入館システムが新しくなりました。図書館 2F と 3F の入館と退館時の両方に、学生証もしくは職員証のタッチが必要になりました。みなさんに安心して図書館を利用してもらうためのセキュリティなので、どうぞご協力ください。

この『としょかんぼう』も2005年7月に復刊し第1号を出してから20年が経ちました。歴代図書館職員の他に、多くの教員、職員からのご寄稿により刊行を続けることができました。これまで発行した号は全て東北福祉大学図書館のHPより見ることができます。これまでご協力くださった方、読んでくださった方、みなさまに感謝申し上げます。(広報WG)

